

第6回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 優秀賞>

「しあわせの糸」

赤坂はるか

小さい頃聞いた運命の赤い糸の話。素敵だと思ったと同時に私は考えた。もしも、他の色の糸があったとしたら……。

もしもそんな糸があったとしたら、父と私を繋ぐのは深い緑の糸だ。多くのことは語らない父が幼い私に言い続けたのは「嘘とずるだけはだめ」ということ。この一言だけ言って一歩下がって見守っていてくれる父は、まるで昔よく一緒に行った公園の大きな木の緑色だ。

幼い頃から泣き虫だった私が友達と喧嘩をしても言い返せず、悔しいまま帰った日。家に帰ってお母さんのご飯を食べれば、心の奥の方からじいんと暖かくなって涙が出た。そして、言い返して友達を傷つけなくてよかったとさえ思えたのだ。

「ほんまに美味しそうに食べるわ。」

嬉しそうに横で笑ったお母さんは、ぼかぼかのオレンジの糸だ。

もしもこの糸が、身近なところだけでなく韓国に引っ越した親友や、もうこの世界とは別の場所にいるおじいちゃんとも繋がっているとしたら。みんながそれぞれの色の糸を持ち、生まれてから今まで出逢った好きな人にも嫌いな人にも、憧れている人やこの世界とは別の世界で生きる人にも繋がっているとしたら。もしそうだとしたら、みえない糸でみんなが繋がる。世界のどこもかしこも繋がればひとりぼっちなんていなくなるだろう。誰かが一人で泣くことも淋しい思いをすることも減るだろう。そうなるといい。

私達が当たり前のように生きる毎日の中で今この瞬間も銃を抱えて眠る少年、お腹が空いても泣く力さえない赤ちゃん。同じ地球にいてもこの現実を簡単に変えることは出来ない。ただ、苦しい状況にいる人や辛い思いをしている人にはどうか気づいてほしい。目に見える物だけが全てじゃないこと。生まれた瞬間から誰かと繋がりがあっていること。糸を大切にすることで幸せになれるという事を。